



## 本誌創刊20周年によせて

取締役社長 青木 周吉

「高度成長を支えた技術革新の時代は終わった」という説が、学界・産業界の一般通念として流れています。ほんとうにそうでしょうか。たしかに今までのように量的拡大が休みなく行われたり、スケールメリットの追求が至上命令であったような時代は終わりました。しかし、エネルギー問題一つを取上げてみても、その解決には革新的な技術の開発が必要です。オイルショックを契機にして、経済の低速化、産業構造の変革、価値観の転換の時代に入ったからといって、技術革新が、今後もう起り得ないというのは、私には納得できません。社会にいろいろな矛盾がある限り、その解決のために、人間は常に努力し、進歩を求めるものです。したがって高度成長の時代よりも、むしろこれからの方がほんとうの意味における技術革新の時代です。そしてその時代をになうのは、諸君ら研究開発にたづさわる人達です。

合併によって当社の活動の範囲はひろがり、また質的な深みも加わりました。既存のプロセス、既存のプロダクトのより一層の改良改善は、当然一日たりともゆるがせにできません。それと同時に、当社の事業に新しい分野を付加することもまた極めて重要な問題です。それによって企業の体力と体質の育成強化が常に行われ、永遠の生命力を得ることができるようです。会社を永遠ならしめること、それは当社に関係するすべての人達の仕事ではありますが、中でも研究開発部門への期待は大なるものがあり、研究員諸子の英知と努力と勇気が、この期待に応えてくれることを確信するものです。いうまでもなく、研究とは創造的な行為であり、また未知への挑戦です。それだけに、きびしく困難な道が諸君の前途にまちらけています。この困難さを少しでも軽くするために、研究開発に関する設備装置の整備と強化をつとに実施してきました。この方針は今後も変わりません。しかしながら研究投資だけで研究の成果があがるものではないこともまた自明のことでもあります。会社の基本的な政策にそってテーマを選択し評価し、社内外の関連部門と十分に意志を疎通し情報を交換し、社会のシーズを掘り起し、ニーズに応えることが、諸君の課題であり、その解決が諸君の仕事であります。研究者としての優れた資質と豊かな才能を持つ諸君が、今までつちかわれてきた当社の土壌の上に、技術革新の花を咲かせてくれることを信じてやみません。

ここに本誌創刊20周年を迎えるにあたり、研究員諸子の日頃の労をねぎらうと共に、なお一層の研鑽をお願いするものであります。